

科目名	医療倫理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	服部健司	単位	2	必修・選択	選択

目的	広義の医療倫理の領域において一義的に正しいとされる答えの定まらない問題を考え抜く力を養う。		
学習到達目標	知識の習得や原則の適用の術を磨くのではなく、日常のなかで埋もれている倫理問題に気がつくための問題発見的な感受性を身につけ、さらにその問題を批判的・反省的に考えることができるようになる。		
成績評価方法	授業への参加態度および授業後のミニレポート	オフィスアワー	授業時間後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	医療倫理学（1）	医療倫理学とは何か	服部 健司
2	医療倫理学（2）	医療倫理学の史的展開	服部 健司
3	ケース・スタディ（1）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
4	「全人的医療」	医学の目的、「全人的医療」がはらむ問題	服部 健司
5	ケース・スタディ（2）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
6	守秘義務	プライバシーと守秘義務	服部 健司
7	ケース・スタディ（3）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
8	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントのゆらぎ	服部 健司
9	ケース・スタディ（4）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
10	患者の意思の自由と自律	パターンリズムと患者の自律	服部 健司
11	ケース・スタディ（5）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
12	医療倫理学と文学	ケース・スタディと文学	服部 健司
13	ケース・スタディ（6）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部 健司
14	医療倫理学教育	医療倫理学教育の方法論	服部 健司
15	ケース・スタディ（7）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議、まとめ	服部 健司

教科書	服部健司・伊東隆雄『医療倫理学のABC 第2版』メヂカルフレンド社(2012)
参考書	

科目名	医療運営・管理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	太田加世 柴山勝太郎	単位	2	必修・選択	選択

目的	<p>【太田】医療制度が看護現場に及ぼす様々な影響を理解した上での、病院運営、看護組織運営を理解できる</p> <p>【柴山】わが国の病院医療について歴史的背景とともに病院医療が抱える課題を6つの視点から考察する</p>		
学習到達目標	<p>【太田】医療制度のおおよそを理解し、その中で病院経営の在り方、看護組織の運営の在り方について、提案できること</p> <p>【柴山】わが国の病院医療の現状及び将来展望について理解を深める</p>		
成績評価方法	レポート、平常点	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
	【太田加世】		
1	社会保障制度と看護	社会保障制度の概要を理解し、看護を取りまく状況を検討する	太田 加世
2	医療保険制度	医療保険制度を理解し、その問題点を検討する	太田 加世
3	医療制度	最近の医療制度改革を理解し、看護への影響を検討する	太田 加世
4	医療提供体制	看護職の人的資源の確保と専門職としての役割について	太田 加世
5	同上	検討する	
6	診療報酬制度	診療報酬制度を理解し、その課題を検討する	太田 加世
7	同上		
8	介護保険制度	介護保険制度が医療に及ぼしている影響を検討する	太田 加世
9	トピックス	その時の時事課題について検討する	太田 加世

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
	【柴山勝太郎】	<p>近年、交通・通信手段の発達により医療にかかわる知識や技術の進歩には目覚しいものがあるが、人々の生活と密着した文化である医療提供体制には試行錯誤の歴史が必要。西洋医学には、2000年の西洋文明で培われた歴史がある。</p> <p>わが国は、明治時代に在来の漢方に代えて西洋医学を導入しましたが、その歴史は僅か百数十年に過ぎない。ゼロから始まったわが国の病院医療は、OECDの統計によれば欧米先進国と大きな開きがあり、発展途上にあると言っても過言ではない。終戦後、昭和23年に医療法を制定。その後、わが国は昭和30年代から高度経済成長期を迎え、国民医療費はGDPと並行し増加の一途をたどった。平成2年以降はバブル経済の崩壊、経済成長の停滞、高齢化社会の到来を目前にして医療提供体制の見直しが必要になった。国は、昭和60年の第一次医療法改正を皮切りに、5回の法改正を行い強力に医療政策の舵を切っている。以上、わが国の病院医療が抱える課題につき6つの視点から考察する。</p>	
1	病院医療の歴史	わが国では、明治時代の西洋医学導入によりスタートした病院医療はまだ歴史が浅く発展途上である。2000年の西洋文明に育まれた欧米諸国の病院医療には学ぶところが多い	柴山 勝太郎
2	病院医療とマンパワー	病院は医師を中心とする専門職の集合体からチーム医療を主体とする有機的組織に進化している	柴山 勝太郎
3	病院の経営	病院では、健全経営が自立の前提	柴山 勝太郎
4	病院の設備	病院には、提供する医療サービスに相応しい設備・機器を整備する不断の努力が求められる	柴山 勝太郎
5	医療をとりまく環境	経済成長の終息と少子高齢化社会の到来	柴山 勝太郎
6	社会保障の理念	社会におけるセフティーネットとしての医療	柴山 勝太郎

教科書	【太田】 使用せず 【柴山】 資料配布 (パワーポイント使用)
参考書	【柴山】 授業の中で紹介する

科目名	人体の構造と機能学特論	学年	1 ・ 2	前期・後期	前 期
担当教員	宗 宮 真	単 位	2	必修・選択	選 択

目的	人体の構造、および環境との関係を機能についての知識をより深め、それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力を養う				
学習到達目標	1) 基礎教育で学んだ人体の構造機能の知識を看護・リハビリテーションの実践にどう活かしてきたかを振り返りながら、人体の構造、および環境との関係を機能についてより深い知識を獲得する 2) それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力が高まる				
成績評価方法	課題レポートを以て評価する	オフィスアワー	講義の前後		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション	この科目について	宗宮 真
2	構造と機能	構造は機能にならう	宗宮 真
3	運動器系 1	運動器の構造と機能 1	宗宮 真
4	運動器系 2	運動器の構造と機能 2	宗宮 真
5	運動器系 3	運動器の構造と機能 3	宗宮 真
6	内蔵・脈管系 1	呼吸器の構造と機能 1	宗宮 真
7	内蔵・脈管系 2	呼吸器の構造と機能 2	宗宮 真
8	内蔵・脈管系 3	循環器の構造と機能 1	宗宮 真
9	内蔵・脈管系 4	循環器の構造と機能 2	宗宮 真
10	内蔵・脈管系 5	内分泌・代謝の構造と機能 1	宗宮 真
11	内蔵・脈管系 6	内分泌・代謝の構造と機能 2	宗宮 真
12	神経系 1	神経系の構造と機能 1	宗宮 真
13	神経系 2	神経系の構造と機能 2	宗宮 真
14	神経系 3	神経系の構造と機能 3	宗宮 真
15	まとめ	まとめ	宗宮 真

教科書	未定
参考書	未定

科目名	加齢医学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	栗田昌裕	単位	2	必修・選択	選択

目的	出生から死亡に至るまでの加齢過程で生じる現象、加齢と生活の蓄積に伴って生じる生活習慣病や知的機能の変化、およびその予防や健康改善の理解・知識をより精緻に発展させ、研究と臨床の実践に役立つようにする。		
学習到達目標	1. 加齢過程で生じる現象の理解、臨床実践を発展させる知識が深まる、 2. 生活習慣病とその予防。改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる。 3. 加齢に伴う知的機能の変化と改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる。		
成績評価方法	出席状況、課題レポートを以て評価する。	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	加齢過程で生じる現象 I	人の一生の発達と加齢過程および老化の機序 1	栗田 昌裕
2	加齢過程で生じる現象 I	人の一生の発達と加齢過程および老化の機序 2	栗田 昌裕
3	口腔の加齢医学 I	口腔の加齢	浅見 知市郎
4	口腔の加齢医学 II	高齢者特有の歯科疾患	浅見 知市郎
5	障害をもつ人の運動と健康	障害者の身体活動に及ぼす加齢の影響	木村 朗
6	加齢における健康と疾病について	Working ability に対する加齢の影響	木村 朗
7	知的機能の発達と加齢の伴う変化	知能の生涯発達。流動的知能と結晶知能の違い。記憶の仕組み。エピソード記憶と意味記憶。記憶の加齢変化。人格と創造性の加齢変化。認知症。	栗田 昌裕
8	知的機能の健康度の維持改善改善 I	知的機能と情報処理機能の対応。知的機能と認知能力及び運動機能との相関。認知機能訓練および運動機能訓練による知的機能改善法とその効果。	栗田 昌裕
9	知的機能の健康度の維持改善 II	知的機能と自律機能及び感情の働きとの相関。自律機能を活用した知的機能改善法と成果。感情情緒の制御による知的機能改善法。	栗田 昌裕
10	知的機能の健康度の維持改善 III	知的機能と生活姿勢との相関。環境と習慣を活用した知的機能改善法。記憶力と創造性の維持法。	栗田 昌裕
11	高齢者の疾病 I	老年病の臨床と高齢者特有の症候。	栗田 昌裕
12	高齢者の疾病 II	生活習慣病の概念とその対策。	栗田 昌裕
13	高齢者の疾病 III	メタボリックシンドローム。特定健診とその対策。	栗田 昌裕
14	高齢者の疾病 IV	その他の高齢者疾患とその病理 1。	栗田 昌裕
15	抗老化医学	その他の高齢者疾患とその病理 2。	栗田 昌裕
		アンチエイジングの展望と可能性。	栗田 昌裕

教科書	
参考書	肥満・肥満症の指導マニュアル第2版、メタボリックシンドローム実践マニュアル、高齢者運動処方ガイドライン、アダプティド・スポーツの科学、運動処方の指針、慢性疾患を有する人への運動指導テキスト

科目名	保健医療統計学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	宮崎有紀子 矢島正栄	単位	2	必修・選択	選択

目的	保健医療系分野における研究に必要な情報の収集・分析方法および統計的方法の基礎を理解する。統計的方法と研究デザイン、データ集計等について、講義および演習を通して学ぶ。		
学習到達目標	統計的方法と研究デザインについて理解を深めることができる。また種々の統計的手法を理解し、研究過程での適用の判断ができる。		
成績評価方法	授業参加度 (60%)、レポート (40%)	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	疫学、統計学の歴史について学ぶ。	宮崎 有紀子
2	疾病頻度の指標	集団における疾病頻度を示す指標について学ぶ。	宮崎 有紀子
3	疫学研究方法 (1)	代表的な疫学研究方法の概要を学ぶ。	宮崎 有紀子
4	疫学研究方法 (2)	リスクの考え方と評価方法について学ぶ。	宮崎 有紀子
5	因果関係論	因果関係論、バイアス、交絡について学ぶ。	宮崎 有紀子
6	統計学の基礎	データの記述方法について学ぶ。	宮崎 有紀子
7	標本抽出法	母集団と標本の概念、および標本抽出法について学ぶ。	宮崎 有紀子
8	統計的推測	推定の考え方について学ぶ。	宮崎 有紀子
9	統計的検定	検定の考え方について学ぶ。	宮崎 有紀子
10	演習 (1)	統計ソフトを用いた演習	宮崎 有紀子・矢島 正栄
11	相関と関連	2変量の関係を示す方法について学ぶ。	宮崎 有紀子
12	ノンパラメトリック統計	ノンパラメトリック統計の考え方について学ぶ。	宮崎 有紀子
13	演習 (2)	統計ソフトを用いた演習	宮崎 有紀子・矢島 正栄
14	多変量解析	多変量解析の考え方、代表的な多変量解析の手法について学ぶ。	宮崎 有紀子
15	まとめ	レポート作成	宮崎 有紀子

教科書	印刷物配布
参考書	別途提示します。

科目名	家族社会学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	内藤和美	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎教育で習得した家族に関する基本的知識をもとに、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識、とくに個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係に関する見識を深め、患者・対象者だけでなく家族を視野に入れた適切な保健医療サービスを提供し得る力を養う		
学習到達目標	1) 家族、労働、ジェンダーを題材に、個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係、という視点を獲得し、その視点から現象を考察できるようになる 2) 個人・家族を社会資源とつなぎ・駆使・調整することによって、問題解決や QOL の向上をはかる力が高まる		
成績評価方法	平常点と課題レポートの到達度を以て評価する	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造①	製造装置としての「性別分業」、一次生産物としての「社会資源の男性偏在」、二次生産物としての「女性問題」	内藤 和美
2	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造②	社会的労働と私生活労働の性別分業	内藤 和美
3	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造③	社会的労働内部の性別分業、2つの分業の再生産関係	内藤 和美
4	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造④	女性問題—「女性に対する暴力」を具体例に	内藤 和美
5	家族機能の破綻とその解決援助①	ドメスティックバイオレンスはどういう問題か	内藤 和美
6	家族機能の破綻とその解決援助②	ドメスティックバイオレンスの解決支援	内藤 和美
7	家族機能の破綻とその解決援助③	DVD 視聴	内藤 和美
8	家族機能の破綻とその解決援助④	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティック・バイオレンス	内藤 和美
9	家族機能の破綻とその解決援助⑤	児童虐待への対応—予防、発見、危機介入（初期対応）、問題解決のための長期的対応	内藤 和美
10	家族機能の破綻とその解決援助⑥	児童虐待への対応の鍵概念—自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	内藤 和美
11	ケアとジェンダー①	「ケアすること」の女性偏在の意味	内藤 和美
12	ケアとジェンダー②	主婦という制度、「母性」規範	内藤 和美
13	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な秩序へ①	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な社会像	内藤 和美
14	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な秩序へ②	ワークライフバランス、家事労働のゆくえ	内藤 和美
15	まとめ	まとめ	内藤 和美

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	内田信子、見上まり子：虐待をこえて、生きる：負の連鎖を断ち切る力. 新曜社, 2010 柏木恵子：おとなが育つ条件：発達心理学から考える. 岩波新書, 2013

科目名	教 育 学	学 年	1 ・ 2	前期・後期	前 期
担当教員	佐 々 木 尚 毅	単 位	2	必修・選択	選 択

目 的	人は歳をとるだけではオトナにならない。子どもを産んだだけではオヤにはなれない。人はどのようにしてオトナになりオヤになっていくのか。その過程を理解し、現代社会におけるオトナになること、オヤになることの難しさの背景を理解することを目的とする。		
学習到達目標	日本の教育の現状と課題を理解し説明できる。その理解の上にたち、大人が果たすべき役割を受講者一人ひとりが主体的に考え、受講者一人ひとりが自律的に、「意味ある大人」として、子ども青年の育ちを促し、励まし、見守り、支えることができる。		
成績評価方法	最終テストまたはレポート(40%)、授業での 討論への参加と授業内で行う課題の提出 (60%)を総合して行う。	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	イントロダクション	なぜ学ぶのか、何を学ぶのか。	佐々木 尚毅
2	社会化(1)	“意味ある大人”の影響力。子どもはどのようにして大人になるのか。大人とは子どもとは。	佐々木 尚毅
3	社会化(2)	「私の頭はコンピューター」。支配し管理する親、応えようとする子ども。	佐々木 尚毅
4	社会化(3)	育児と育自、子育てと子育ち。	佐々木 尚毅
5	社会化(4)	社会化の現代的特質。子どもの育ち、若者の現状。見誤られる「教育問題」の本質。	佐々木 尚毅
6	ジェンダー(1)	性別役割と特性論。	佐々木 尚毅
7	ジェンダー(2)	国連『人口白書』(2000年)の警告。少子高齢社会の必然。ジェンダーと少子化。	佐々木 尚毅
8	ジェンダー(3)	働くことと生きること。男女平等—世界の中の日本—	佐々木 尚毅
9	子どもの“荒れ”(1)	人は人の中で人になる。機能的共同体としてのムラ。子育てと子育ちの仕掛けと儀式。	佐々木 尚毅
10	子どもの“荒れ”(2)	高度経済成長を支えた“金の卵”たち。ムラを忘れた子どもたち。	佐々木 尚毅
11	子どもの“荒れ”(3)	学歴社会、そして学校歴社会。ジェンダーと学歴社会。“お受験”を支える日本の心性「なせば成る」。	佐々木 尚毅
12	大人になれない子どもたち(1)	一億総ガキ社会。「生きる力」はなぜ求められたか。	佐々木 尚毅
13	大人になれない子どもたち(2)	子ども若者の現状と指導の課題。どう支援するか。	佐々木 尚毅
14	指導・支援・援助	大人として、親として。	佐々木 尚毅
15	まとめ	まとめ	佐々木 尚毅

教科書	資料を配布する。
参考書	

科目名	応用英語	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	杉田雅子	単位	2	必修・選択	選択

目的	研究に必要な情報・知識を得るための英文読解力と、各自の研究成果を英語で表現する力の養成。音声面では正しい発音・アクセントで英文が読める力の養成。		
学習到達目標	1) 基礎的英文法を確認しながら構文を分析し、英語文献を正しく読み取る力が高まる 2) 読み取った内容から論旨を把握し、要約する力が高まる 3) 運用できる専門用語が増える 4) 英文を正しい発音、アクセントで読む力が高まる		
成績評価方法	授業での課題の発表状況と平常点を以て評価する。	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	医療・健康に関する英文を読む①	Osteoporosis についての文献を読む。	杉田 雅子
2	医療・健康に関する英文を読む②	Rehabilitation についての文献を読む。	杉田 雅子
3	医療・健康に関する英文を読む③	Stress についての文献を読む。	杉田 雅子
4	医療・健康に関する英文を読む④	Risk Management についての文献を読む。	杉田 雅子
5	医療・健康に関する英文を読む⑤	Ethical Issues についての文献を読む。	杉田 雅子
6	医療・健康に関する英文を読む⑥	Changes in Sleep Patterns in COPD についての文献を読む。	杉田 雅子
7	医療・健康に関する英文を読む⑦	Changes in Sleep Patterns in COPD についての文献を読む。	杉田 雅子
8	医療・健康に関する英文を読む⑧	Confusion についての文献を読む。	杉田 雅子
9	医療・健康に関する英文を読む⑨	Confusion についての文献を読む。	杉田 雅子
10	医療・健康に関する英文を読む⑩	Communicating with Infants についての文献を読む	杉田 雅子
11	医療・健康に関する英文を読む⑪	Communicating with Infants についての文献を読む	杉田 雅子
12	Abstract の読み方、書き方	実際の論文の abstract を読み、書き方を説明する。	杉田 雅子
13	研究論文を読む①	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
14	研究論文を読む②	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
15	研究論文を読む③	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子

*受講生の専門によって、読む文献を変更する可能性がある。

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	英和辞典、英英辞典、 飯田恭子：『カタカナでわかる医療英単語』、医学書院、2005年。 飯田恭子、平井美津子：『アタマとオシリでわかる医療英単語』、医学書院、2006年。

科目名	研究方法特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	矢島正栄・高橋正明・木村朗 藤田清貴・小河原はつ江	単位	1	必修・選択	必修

目的	保健科学研究の意義、および研究を遂行する上で習得すべき基本的な事項を学修する。				
学習到達目標	自分が研究を行う意義を説明できる。 研究に必要な基本的考え方について説明できる。 研究倫理について説明できる。 研究の分類とその特質について説明できる。				
成績評価方法	レポート	オフィスアワー	講義の前後		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究の意義	研究とは、研究の意義	高橋正明
2	保健医療研究の歴史	保健医療に関する研究の歴史	木村朗
3	研究の基礎 1	計測について	木村朗
4	研究の基礎 2	信頼性、妥当性、バイアスについて	木村朗
5	研究と倫理	医療系における研究の道義的責任と倫理	藤田 清貴
6	研究の分類と特質 1	理学療法領域における研究 —基礎研究、応用研究を中心に—	木村朗
7	研究の分類と特質 2	病因・病態検査学領域における研究 —臨床研究を中心に—	小河原はつ江
8	研究の分類と特質 3	看護学領域における研究 —質的研究を中心に—	矢島正栄

教科書	特に指定しない
参考書	

科目名	研究方法論 I	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	牛込三和子 矢島正栄 真砂涼子 酒井美絵子 鈴木珠水 早川有子 伊藤まゆみ 小林亜由美	単位	1	必修・選択	選択

目的	看護学領域における課題とその探求方法、看護学研究の遂行に必要な基本的知識、技術を学ぶ。		
学習到達目標	1. 看護学研究の意義と特質を説明できる。 2. 看護学研究における着想から研究成果の公表までのプロセスと、研究成果を社会に還元する方法を説明できる。 3. 看護学研究で用いられる研究手法の特徴と具体的な展開方法を説明できる。		
成績評価方法	レポート	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	看護研究の意義と特質	看護研究の意義と特質	牛込三和子
2	文献クリティーク 1	文献クリティーク 1	真砂涼子
3	文献クリティーク 2	文献クリティーク 2	真砂涼子
4	量的研究の展開方法 1	量的研究の展開方法 1	小林亜由美
5	量的研究の展開方法 2	量的研究の展開方法 2	小林亜由美
6	質的研究の展開方法 1	質的研究の展開方法 1	矢島正栄
7	質的研究の展開方法	質的研究の展開方法	矢島正栄
8	看護学研究における倫理 看護学研究の発展	看護学研究における倫理 看護学研究の発展	酒井美絵子

教科書	特に定めない
参考書	

科目名	研究方法論Ⅱ	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	木村朗	単位	1	必修・選択	選択

目的	主として理学療法学領域で用いられている人間の身体機能と環境に関する計測を主として得られるデータに基づく基礎的研究手法と、臨床（応用）研究方法を分類し、研究課題のを見つけ方から数値解析・統計分析の手法を含めた科学的根拠(エビデンス)を示しうる研究デザインの設計方法の流れを学ぶ。				
学習到達目標	1. 研究手法の種類が説明出来る。2. 理学療法学領域で頻度の高い研究手法について科学的根拠を示しうるデザインとは何かを説明出来る。3. 研究デザインに適合する数値解析・統計分析手法について代表的な方法を少なくとも3例列挙し、説明出来るようになる。				
成績評価方法	出席を重視する。適宜レポートの提出を求めることがある。	オフィスアワー	授業開講期間の火曜日 18時-19時		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	理学療法研究手法と研究デザインの変遷	北米および日本の過去30年間における理学療法に関連する学術誌に掲載された研究論文から、研究対象、研究デザイン、統計解析手法について特徴を述べる。	木村朗
2	科学的方法の概念と研究デザイン	人体計測 (anthropometry) に関連する研究論文から、科学的方法の概念について述べる。	木村朗
3	研究計画方法と研究デザイン	理学療法関連の学術誌に掲載された疾患・障害の疫学研究論文を例に、研究計画・サンプリング・外的妥当性・内的妥当性の概念について述べる。	木村朗
4	研究デザイン	理学療法関連の学術誌に掲載された基礎的研究論文から、実験研究デザイン・介入研究デザイン、調査・質問紙法デザイン、質的研究デザインなど研究デザインについて述べる。	木村朗
5	データ収集と研究デザイン	理学療法関連の学術誌に掲載された研究論文から、質的データ収集デザイン、インタビューデータ、観察データ、測定データについて述べる。	木村朗
6	記述統計学と研究デザイン	理学療法関連の学術誌に掲載された研究論文から中心傾向、代表値、相関など記述統計について述べる。 (統計言語 R を用いたデモンストレーションを含む)	木村朗
7	推測統計学と研究デザイン	理学療法関連の学術誌に掲載された臨床研究論文から危険率、分布、仮説検証、各種検定手法、リサーチエビデンスの評価データについて述べる。 (統計言語 R を用いたデモンストレーションを含む)	木村朗
8	古典的統計手法と計算機統計手法を用いた研究デザイン	最近の保健科学に関連する学術誌に掲載された研究論文から、古典的統計解析手法と計算機統計手法を用いた研究デザインについて特徴を述べる。 (統計言語 R を用いたデモンストレーションを含む)	木村朗

教科書	
参考書	Introduction to Research in the Health Sciences, 5e Polgar BSc (Hons) MSc, Stephen

科目名	研究方法論Ⅲ	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	藤田清貴 小河原はつ江 川口竜二 亀子光明	単位	1	必修・選択	選択

目的	病因・病態検査学領域で研究を遂行するものに必要な知識、態度、技術、科学的根拠に基づく分析能力を獲得するために、各検査学分野における科学的研究の種類と特徴、問題解決のための研究方法を探究する（オムニバス方式）。		
学習到達目標	各検査学分野における研究方法の特徴および研究の進め方を理解し説明できる。		
成績評価方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	オフィスアワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	イントロダクション 免疫学分野における研究方法論（1）	免疫学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（1）	藤田 清貴
2	免疫学分野における研究方法論（2）	免疫学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（2）	藤田 清貴
3	血液学分野における研究方法論（1）	血液学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（1）	小河原 はつ江
4	血液学分野における研究方法論（2）	血液学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（2）	小河原 はつ江
5	臨床化学分野における研究方法論（1）	臨床化学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（1）	亀子 光明
6	臨床化学分野における研究方法論（2）	臨床化学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（2）	亀子 光明
7	遺伝子検査学分野における研究方法論（1）	遺伝子検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（1）	川口 竜二
8	遺伝子検査学分野における研究方法論（2）	遺伝子検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論（2）	川口 竜二

教科書	特になし。
参考書	必要に応じて資料を配布する。

科目名	保健学特別セミナー	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	真砂涼子 牛込三和子 鈴木珠水 酒井美絵子 早川有子 伊藤まゆみ 矢島正榮 江口勝彦 高橋正明 中徹 松澤正 木村朗 小河原はつ江 川口竜二 藤田清貴	単位	2	必修・選択	必修

目的	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらの知識・情報を各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討に役立てる。		
学習到達目標	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらを活用して、各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討が進む。		
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する。	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	基礎看護学	基礎看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	真砂 涼子
2	成人看護学Ⅰ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	牛込 三和子
3	成人看護学Ⅱ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	鈴木 珠水
4	成人看護学Ⅲ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	酒井 美絵子
5	母子看護学	母子看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	早川 有子
6	老年看護学	老年看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	伊藤 まゆみ
7	地域看護学	地域看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。また、看護教育学についても触れる	矢島 正榮
8	運動生理学	運動生理学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	江口 勝彦
9	運動学	運動学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	高橋 正明
10	小児の運動学	小児の運動発達に関する最新の研究動向と争点や課題について講義する	中 徹
11	物理療法学	物理療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	松澤 正
12	保健科学	保健科学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	木村 朗
13	病因・病態検査学	病態血液検査学の研究動向と争点や課題について講義する	小河原 はつ江
14	病因・病態検査学	遺伝子情報検査学の研究動向と争点や課題について講義する	川口 竜二
15	病因・病態検査学	病態免疫化学検査学の研究動向と争点や課題について講義する。	藤田 清貴

教科書	使用しない
参考書	山手茂：園田恭一：保健・医療・福祉の研究・教育・実践. 東信堂、2007 イアン・K. クロンビー：津富宏 医療専門職のための研究論文の読み方：批判的吟味がわかるポケットガイド. 金剛出版、2007

科目名	基礎看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	真砂涼子 上星浩子 馬醫世志子	単位	2	必修・選択	選択

目的	看護独自の援助法（看護技術）に関する研究の動向や課題について理解する。さらに、看護援助の効果について総合的に分析・評価するための最新の知見と新たな介入法の開発の課題について理解する。		
学習到達目標	1) 人間・環境・健康・看護を探求する看護学の研究の動向や課題について理解する。 2) 看護実践の効果を科学的に検証し、新しい看護介入方法の開発につながる研究方法並びに人間関係を基盤とする看護現象の分析に関する研究方法を学ぶ。		
成績評価方法	課題に関するプレゼンテーション及びレポート	オフィスアワー	講義の前後。個別の相談は随時受け付ける（masago@paz.ac.jp）。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	真砂 涼子・上星 浩子 馬醫 世志子
2	基礎看護学領域の動向と課題 I	基礎看護学と看護技術について	真砂 涼子
3	基礎看護学領域の動向と課題 II	基礎技術に関連する研究について	真砂 涼子
4	看護技術に関する研究動向 I	看護学の視点における生活環境刺激と生体反応	真砂 涼子
5	看護技術に関する研究動向 I	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術に関する研究	真砂 涼子
6	看護技術に関する研究動向 II	看護技術に関する経験・体験に関連する研究	上星 浩子
7	看護技術に関する研究動向 II	看護場面での看護師の認識に関連する研究	上星 浩子
8	看護技術に関する研究動向 III	療養環境に関連する研究（1）	馬醫 世志子
9	看護技術に関する研究動向 III	療養環境に関連する研究（2）	馬醫 世志子
10	基礎看護学領域の研究動向 I	基礎看護学に関連する研究の現状（1）	真砂 涼子
11	基礎看護学領域の研究動向 II	基礎看護学に関連する研究の現状（2）	真砂 涼子
12	基礎看護学領域の研究動向 III	基礎看護学に関連する研究の現状（3）	真砂 涼子
13	基礎看護学領域の研究動向 IV	基礎看護学に関連する研究の現状（4）	真砂 涼子
14	基礎看護学領域の研究動向 V	基礎看護学に関連する研究の現状（5）	真砂 涼子
15	基礎教育における課題	基礎教育における基礎看護学の課題	真砂 涼子・上星 浩子 馬醫 世志子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	真砂涼子 上星浩子 馬醫世志子	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎看護学特論で理解した看護援助の効果について課題別に文献考査し、先行研究の批判的考察を行い、今後の課題について演習する。				
学習到達目標	研究課題を見出し、文献レビューを通して、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を実際的に理解し、個別の具体的な課題に関する研究計画書を作成する。				
成績評価方法	各自の設定した課題に基づく研究計画の作成過程及び研究計画書により総合的に評価する。	オフィスアワー	講義の前後。個別の相談は随時受け付ける (masago@paz.ac.jp)。		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題	真砂涼子・上星浩子 馬醫世志子
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	真砂涼子・上星浩子 馬醫世志子
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	真砂涼子
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題と研究方法（１）	真砂涼子・馬醫世志子
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題と研究方法（２）	真砂涼子・馬醫世志子
6	研究課題の検討Ⅵ	研究における倫理面の検討	真砂涼子・上星浩子
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題に関連する文献レビュー（１）	真砂涼子・上星浩子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究課題に関連する文献レビュー（２）	真砂涼子・上星浩子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究課題に関連する文献レビュー（３）	真砂涼子・上星浩子
10	研究計画立案Ⅰ	研究論文の作成と研究成果の公表	真砂涼子
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画（１）	真砂涼子・上星浩子 馬醫世志子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画（２）	真砂涼子・上星浩子 馬醫世志子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画（３）	真砂涼子・上星浩子 馬醫世志子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画（４）	真砂涼子・上星浩子 馬醫世志子
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画（５）	真砂涼子・上星浩子 馬醫世志子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	成人看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	牛込三和子 酒井美絵子 鈴木珠水 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	成人看護学の対象となる主な疾病の保健と医療の動向および医療対策、専門的看護実践の基礎となる、対象理解、アセスメント、看護技術、支援システム、家族支援について理解し、今日的課題をみいだす。また、成人看護学基礎教育のカリキュラムと臨地実習について現状と課題について理解を深める。		
学習到達目標	1) 生活習慣病、がん、難病の保健と医療の動向を理解する。 2) 成人看護の動向を理解する。 3) 成人看護学基礎教育のカリキュラム、臨地実習について現状と課題を理解する。		
成績評価方法	平常点（課題についてのプレゼンテーションと討議内容）50%、レポート50%。	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	はじめに	成人看護学特論の展開について	牛込三和子、酒井美絵子 鈴木珠水、萩原英子
2	成人看護学の研究動向	成人看護学の研究動向、成人看護学特論について	牛込三和子、酒井美絵子 鈴木珠水、萩原英子
3	医療対策の動向1	医療提供体制	牛込三和子
4	医療対策の動向2	在宅医療	牛込三和子
5	保健と医療の動向1	生活習慣病対策	鈴木珠水
6	成人看護の動向1	慢性病看護	鈴木珠水
7	保健と医療の動向2 成人看護の動向2	がん対策、がん看護	鈴木珠水、萩原英子
8	成人看護の動向3	看護の専門性	酒井美絵子
9	成人看護の動向4	看護と法・制度	酒井美絵子
10	成人看護の動向5	安全な医療提供・看護の質管理	酒井美絵子
11	成人看護の動向6	外来看護	島田恵、鈴木珠水
12	保健と医療の動向3	難病対策	牛込三和子
13	成人看護の動向7	難病看護	牛込三和子
14	成人看護学基礎教育の現状と課題1	カリキュラム、教育に関して	牛込三和子、酒井美絵子
15	成人看護学基礎教育の現状と課題2	臨地実習、新人教育に関して	鈴木珠水、萩原英子

教科書	国民衛生の動向 2013/2014年版。その他必要に応じて提示する。
参考書	適宜紹介する

科目名	成人看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	牛込三和子 酒井美絵子 鈴木珠水 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	がん、慢性病、難病等を持つ患者、急性期治療を要する患者等に対する最新の看護知見、社会支援システム、成人看護学教育のありかたについて、国内外の文献抄読、各自の実践報告などを通して、実践・研究の現状を学び、各自の研究計画を作成する。		
学習到達目標	1) 文献抄読を通して成人看護学領域における研究の最新の知見を学ぶ。 2) 自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成できる。		
成績評価方法	各自の設定した課題に基づいて立案した研究計画書 100%	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題	牛込三和子、酒井美絵子 鈴木珠水、萩原英子
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	牛込三和子、酒井美絵子 鈴木珠水、萩原英子
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	酒井美絵子、鈴木珠水
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題と研究方法 1.	酒井美絵子、鈴木珠水
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題と研究方法 2.	酒井美絵子、萩原英子
6	研究課題の検討Ⅵ	研究における倫理面の検討	酒井美絵子、萩原英子
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題に関連する文献レビュー1.	酒井美絵子、牛込三和子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究課題に関連する文献レビュー2.	酒井美絵子、牛込三和子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究課題に関連する文献レビュー3.	酒井美絵子、鈴木珠水
10	研究計画立案Ⅰ	研究論文の作成と研究成果の公表	酒井美絵子、鈴木珠水
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画 1.	酒井美絵子、萩原英子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画 2.	酒井美絵子、萩原英子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画 3.	酒井美絵子、牛込三和子 鈴木珠水、萩原英子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画 4.	酒井美絵子、牛込三和子 鈴木珠水、萩原英子
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画 5. 研究計画書の発表	酒井美絵子、牛込三和子 鈴木珠水、萩原英子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	老年看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	伊藤 まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護の実践の基礎となる、対象理解、支援・評価方法の理論と技術、高齢者医療を取り巻く制度、政策、及び今日的課題を学ぶ。さらに老年看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。		
学習到達目標	1) 高齢者の加齢に伴う変化と、からだ・こころの健康問題について理解する。 2) 高齢者看護の最新の知識とエビデンスに基づいた看護支援方法について理解する。 3) 老年看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。		
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。	オフィスアワー	前期：授業開催曜日の17時以降、土曜日 後期：授業開催土曜日の9-12時

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	コース概要、学習の進め方、受講にあたっての自己課題	伊藤 まゆみ
2	老年看護学特論の概要	老年看護学の概念、老年看護学の歴史の変遷	伊藤まゆみ
3	老年期の発達理論	老化理論とエイジング、老年期の発達理論の新しい考え方	伊藤 まゆみ
4	高齢者の健康問題	からだ・こころ・社会的側面からみた高齢者特有の健康問題	伊藤 まゆみ
5	健康増進活動とメンタルヘルス	高齢者における健康増進活動の可能性とその効果、高齢者とうつ病	伊藤 まゆみ
6	高齢者の健康障害と看護Ⅰ	急性・慢性の健康障害	伊藤 まゆみ
7	高齢者の健康障害と看護Ⅱ	せん妄	伊藤 まゆみ
8	高齢者の健康障害と看護Ⅲ	認知症	伊藤 まゆみ
9	高齢者のエンドオブライフ・ケア	人生の最終末期における看護、倫理的課題	伊藤 まゆみ
10	高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護①	超高齢社会における制度・政策と看護への期待	柏木とき江
11	高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護②	地域における認知症ケアシステムの構築	柏木とき江
12	高齢者ケアの倫理的課題	高齢者と人権、成年後見制度、高齢者虐待、身体拘束	伊藤 まゆみ
13	高齢者ケアと看護管理	高齢者医療・ケアにおける看護管理の現状と課題	関 妙子
14	老年看護学教育Ⅰ	看護基礎教育における老年看護学教育	伊藤 まゆみ
15	老年看護学教育Ⅱ	現任教育における老年看護学教育	青柳 直樹

教科書	なし
参考書	エイジング心理学、谷口幸一・佐藤眞一編著、北大路房

科目名	老年看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	伊藤まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護学に関する課題とその動向を概説し、自己の研究課題を探求する。また、課題探求のための具体的な計画書が作成できる。				
学習到達目標	1) 文献レビュー、実践活動の分析から自己の研究課題を見いだすことができる。 2) 課題探求のための研究デザイン、方法について追求できる。 3) 研究計画書が作成できる。				
成績評価方法	出席状況、文献レビュー・実践活動からの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。	オフィスアワー	前期：授業開催曜日の17時以降、土曜日 後期：授業開催土曜日の9-12時		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	授業の進め方、研究計画立案から論文作成まで	伊藤まゆみ
2	研究の進め方Ⅰ	研究課題の探索、文献検索と抄読の方法	伊藤まゆみ
3	研究の進め方Ⅱ	研究方法について①	伊藤まゆみ
4	文献レビューⅠ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤まゆみ
5	研究の進め方Ⅲ	研究方法について②	伊藤まゆみ
6	文献レビューⅡ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤まゆみ
7	研究の進め方Ⅳ	研究における倫理の問題	伊藤まゆみ
8	文献レビューⅢ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤まゆみ
9	文献レビューⅣ	文献レビューのまとめ	伊藤まゆみ
10	研究計画Ⅰ	研究計画書の作成方法	伊藤まゆみ
11	研究計画Ⅱ	研究課題の焦点化、研究目的	伊藤まゆみ
12	研究計画Ⅲ	研究デザイン・方法	伊藤まゆみ
13	研究計画Ⅳ	研究実施計画	伊藤まゆみ
14	研究計画Ⅴ	倫理面の検討	伊藤まゆみ
15	研究計画Ⅵ	研究計画の発表と討議	伊藤まゆみ

教科書	看護研究 step by step 黒田裕子著、学研
参考書	看護研究－原理と方法第2版、D.F.ポーリット著、近藤潤子監訳、医学書院 看護研究計画書－作成の基本ステップ、小玉香津子訳、日本看護協会出版会

科目名	母性看護学・助産学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	早川有子 中島久美子	単位	2	必修・選択	選択

目的	女性のライフステージ各期における健康問題と看護及び分娩期の看護について最新の知見への理解を深め、それらを土台に女性や子ども家族をめぐる今日的課題を考察する。		
学習到達目標	1. 女性のライフステージ各期における健康問題と看護及び助産ケアのあり方について理解する。 2. 1. から看護師/助産師が果たす役割を理解し自己の知見を深める。		
成績評価方法	担課題についてのプレゼンテーションと討議、レポートを総合的に評価する。	オフィスアワー	授業開催日

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	母子の健康問題Ⅰ	ガイダンス 母子に関する今日的課題1（国内）	早川有子
2	母子の健康問題Ⅱ	母子に関する今日的課題2（国外）	早川有子
3	母子の健康問題Ⅲ	母性看護の理論、母子関係と家族発達	中島久美子
4	母子の健康問題Ⅳ	子育て支援、夫婦関係に関する今日的課題	中島久美子
5	母子の健康問題Ⅴ	母乳栄養と母乳育児支援	早川有子
6	母子の健康問題Ⅵ	母子の感染症と今日的課題	早川有子
7	母性の健康問題Ⅰ	母性看護、助産ケアのエビデンス1	中島久美子
8	母性の健康問題Ⅱ	母性看護、助産ケアのエビデンス2	中島久美子
9	母性の健康問題Ⅲ	DV及び性同一性障害	早川有子
10	母性の健康問題Ⅳ	不妊症と看護	早川有子
11	母性の健康問題Ⅴ	母性看護、助産ケアの有用性	中島久美子
12	母性の健康問題Ⅵ	周産期のメンタルヘルス	中島久美子
13	母性看護学/助産学教育Ⅰ	母性看護学/助産学教育の現状と課題	早川有子
14	母性看護学/助産学教育Ⅱ	母性看護学実習、助産実習の現状と課題	中島久美子
15	討議	全体まとめ及び今後の課題	早川有子・中島久美子

教科書	指定せず
参考書	適宜紹介する

科目名	母性看護学・助産学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	早川有子 中島久美子	単位	2	必修・選択	選択

目的	母性看護学/助産学に関する最新の看護知見、社会支援システム、教育について、国内外の文献抄読、各自の実践報告などを通して、実践・研究の現状を学び、各自の研究計画を作成する。		
学習到達目標	1) 文献抄読を通して母性看護学/助産学領域における研究の最新の知見を学ぶ。 2) 自己の研究課題を明確にし、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を理解し、研究計画書を作成できる。		
成績評価方法	各自の設定した課題に基づいて立案した研究計画書	オフィスアワー	授業開催日

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、学際とは 看護学領域と学際領域の研究課題	早川 有子
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	早川 有子
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	早川 有子
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題に関連する文献レビュー1.	早川 有子
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題に関連する文献レビュー2.	早川 有子
6	研究課題の検討Ⅵ	研究課題に関連する文献レビュー3	早川 有子
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題と研究方法	早川 有子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究計画書の作成方法	早川 有子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究計画 1. (研究課題の明確化 研究目的)	早川 有子
10	研究計画立案Ⅰ	研究計画 2. (研究デザイン・方法) 1	早川 有子
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画 2. (研究デザイン・方法) 2	早川 有子・中島 久美子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画 3. (倫理面の検討)	早川 有子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画 4. 研究計画書の発表と討議&修正・追加	早川 有子・中島 久美子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画書 5. 研究計画書の発表と討議&修正・追加 (具体的内容設計作成含む)	早川 有子・中島 久美子
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画 6. 研究計画書の完成 (修正・追加)	早川 有子・中島 久美子

教科書	指定せず (必要に応じて資料を配布する)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	公衆衛生看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	矢島正栄 小林亜由美 中下富子 齊藤玲子	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論と技術、対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化について教授する。また、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について教授する。さらに、地域看護学教育の歴史と展望、地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題、地域看護管理について教授する。		
学習到達目標	1) 地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について理解できる。 2) 対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化の意義と方法、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映の方法がわかる。 3) 地域看護学教育の歴史をふまえた基礎教育及び現任教育の役割と課題がわかる。		
成績評価方法	レポート	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	地域看護学の理念	地域看護学の理念	矢島 正栄
2	公衆衛生行政と地域看護	公衆衛生行政の現状と地域看護の役割	矢島 正栄
3	地域における保健師の活動	個人、家族、集団を対象とした地域看護の理論と技術	矢島 正栄
4	地域看護学教育	地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題	矢島 正栄
5	対象別地域看護実践方法 I	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
6	対象別地域看護実践方法 I	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
7	対象別地域看護実践方法 II	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
8	対象別地域看護実践方法 II	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
9	対象別地域看護実践方法 III	精神保健活動の展開方法、精神保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
10	職域別地域看護実践方法 I	産業保健活動の展開方法、産業保健の現状と今後の課題	齊藤 玲子
11	職域別地域看護実践方法 II	学校保健活動の展開方法、学校保健の現状と今後の課題	中下 富子
12	地域看護管理	地域看護管理	矢島 正栄
13	地域看護学研究の動向	地域看護学に関する研究論文の抄読	矢島 正栄
14	地域看護学研究の動向	地域看護学に関する研究論文の抄読	矢島 正栄
15	地域看護学県急の動向	地域看護学に関する研究論文の抄読	矢島 正栄

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	公衆衛生看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	矢島正栄 小林亜由美 廣田幸子	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域看護学に関する研究の動向を理解し、事故の研究課題を探求する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。		
学習到達目標	1) 地域看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 2) 地域看護学領域における研究の動向がわかる。 3) 自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。		
成績評価方法	レポート	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
2	研究の進め方Ⅰ	研究計画立案から論文作成まで	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
3	研究の進め方Ⅱ	研究デザイン・研究方法の理解	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
4	研究の進め方Ⅲ	研究デザイン・研究方法の理解	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
5	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
6	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
7	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
8	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
9	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
10	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
11	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
12	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
13	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
14	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子
15	研究計画の検討Ⅳ	研究計画の発表	矢島 正栄・小林亜由美 廣田幸子

教科書	黒田裕子の看護研究 Step by Step (医学書院)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	小児看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	野田智子	単位	2	必修・選択	選択

目的	健康問題を抱える学齢期の子ども（家族を含む）の現状と課題を学び、小児看護の果たす役割について考察する。				
学習到達目標	1) 健康問題を抱える学齢期の子ども（家族を含む）の支援の実際と課題を理解することができる。 2) 健康問題を抱える学齢期の子ども（家族を含む）の支援において小児看護の果たす役割を考察することができる。				
成績評価方法	授業の参加度 60%	レポート 40%	オフィスアワー	授業日	

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	小児医療と小児看護の変遷と今日的課題	わが国の小児医療の歴史と小児看護の変遷、小児医療と小児看護の今日的課題	野田智子
2	小児医療と小児看護をめぐる倫理的課題	小児医療と小児看護における子どもの権利、倫理的課題	野田智子
3	知的障がいを抱える子どもの現状と課題①	知的障がい児の特徴	野田智子
4	知的障がいを抱える子どもの現状と課題②	支援の実際（学校生活、健康管理、健康教育）、課題	野田智子
5	肢体不自由・重度の障がいを抱える子どもの現状と課題①	肢体不自由児・重症心身障がい児の特徴、	野田智子
6	肢体不自由・重度の障がいを抱える子どもの現状と課題②	支援の実際（学校生活、健康管理）	野田智子
7	肢体不自由・重度の障がいを抱える子どもの現状と課題③	支援の実際（医療的ケア）、課題	野田智子
8	発達障がいを抱える子どもの現状と課題①	発達障がい児（自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害）の特徴	野田智子
9	発達障がいを抱える子どもの現状と課題②	支援の実際（学校生活、健康管理、健康教育）	野田智子
10	発達障がいを抱える子どもの現状と課題③	課題	野田智子
11	心の問題を抱える子どもの現状①	学齢期における心の問題の特徴	野田智子
12	心の問題を抱える子どもの現状②	支援の実際（健康相談活動）	野田智子
13	心の問題を抱える子どもの現状③	課題	野田智子
14	健康問題を抱える学齢期の子どもと家族に関する研究の動向	健康問題を抱える学齢期の子どもと家族に関する先行研究を紹介する。	野田智子
15	健康問題を抱える学齢期の子どもに対する小児看護の役割	これまでの学びを統合し、健康問題を抱える学齢期の子どもと家族に対する小児看護の果たす役割についてまとめる。	野田智子

教科書	使用しない（プリントを配布する）
参考書	授業の中で適宜紹介する

科目名	精神看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	小林 信	単位	2	必修・選択	選択

目的	ひとのからだところの理解を深め、精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論、実践の場で行う援助技術について学ぶ。また高齢者のところの健康を支援するための行政、地域社会の役割と課題について理解を深める。さらに精神看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。		
学習到達目標	1) ひとのところの健康と発達理論、精神看護の基礎理論について理解する。 2) 精神看護の実践に必要な援助技術、医療制度・政策の現状と課題について理解する。 3) 精神看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。		
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。	オフィスアワー	講義後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	精神看護学特論の概要	精神看護学の概念及び精神看護学と研究をとりまく最近の動向	小林 信
2	からだところの健康	精神看護学における健康の概念	小林 信
3	ところの発達理論Ⅰ	精神力動理論（フロイト：心の機能と構造）	小林 信
4	ところの発達理論Ⅱ	精神力動理論（エリクソン：発達課題）	小林 信
5	精神看護の基礎理論Ⅰ	セルフケアモデル	小林 信
6	精神看護の基礎理論Ⅱ	地域ケアモデル（ACT-J）	小林 信
7	精神看護の基礎理論Ⅲ	危機理論（アギュララ）	小林 信
8	精神看護の基礎理論Ⅳ	生物学モデル（精神科薬物療法）	小林 信
9	リエゾン精神看護	リエゾン精神医学の基礎と看護への適用	小林 信
10	精神看護の援助技術Ⅰ	コンサルテーション技術	小林 信
11	精神看護の援助技術Ⅱ	高感情表出と家族支援	小林 信
12	精神保健福祉政策	現状と課題	小林 信
13	救急医療	精神科救急の現状と課題	小林 信
14	研究の動向と課題	精神看護学研究の動向と課題	小林 信
15	精神看護学教育	教育の理論と方法、展開、評価	小林 信

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配付する）
参考書	適宜紹介する

科目名	在宅看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	小笠原映子	単位	2	必修・選択	選択

目的	在宅ケアシステム構築に関する理論と方法について教授する。また、在宅看護に必要なアセスメント、ケアマネジメント、及びケアの評価の方法、在宅看護技術、在宅ケアにおける家族指導技術、在宅ケアチームの形成について教授する。また、在宅看護における看護管理の方法について教授する。さらに、在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題について教授する。		
学習到達目標	1) 在宅看護技術の特質、家族に対する指導技術、在宅ケアマネジメントの意義と方法、在宅ケアシステム構築に関する理論と方法がわかる。 2) 在宅看護における看護管理の方法がわかる。 3) 在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題がわかる。		
成績評価方法	レポート	オフィスアワー	講義の前後

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	在宅看護の基礎 I	在宅看護の考え方 (1)	小笠原映子
2	在宅看護の基礎 II	在宅看護の考え方 (2)	小笠原映子
3	在宅看護の基礎 III	在宅看護技術 (1)	小笠原映子
4	在宅看護の基礎 IV	在宅看護技術 (2)	小笠原映子
5	介護保険と在宅看護 I	介護保険と在宅看護 (1)	小笠原映子
6	介護保険と在宅看護 II	介護保険と在宅看護 (2)	小笠原映子
7	在宅看護の動向 I	呼吸器疾患の療養者に対する在宅看護の展開	梨木恵実子
8	在宅看護の動向 II	難病療養者に対する在宅看護の展開 (1)	友松幸子
9	在宅看護の動向 III	難病療養者に対する在宅看護の展開 (2)	中嶋馨子
10	在宅看護の動向 IV	小児の療養者に対する在宅看護の展開	堀美佐子
11	在宅看護の動向 V	在宅リハビリテーション	蛭間基夫
12	在宅看護の動向 VI	退院調整	富田千恵子
13	在宅看護の動向 VII	在宅チームケア	小笠原映子
14	在宅看護学教育 I	看護基礎教育における在宅看護学教育	小笠原映子
15	在宅看護学教育 II	現任教育における在宅看護学教育	小笠原映子

教科書	指定せず (必要に応じて資料を配布する)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	高橋正明 江口勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	理学療法学研究に資する基礎理学療法学に関する知識の滋養・概念の整理				
学習到達目標	人体における基本的運動・動作を力学的に説明できること。このことを理学療法教育において教えるための授業計画を立案できること。PT関連の研究文献を論理的かつ批評的に読めること。PT関連領域を研究の現状と今後について説明できること。				
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。	オフィスアワー	①火曜：18時～19時 ②質問はメールで受け付ける takahashi@paz.ac.jp		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション		高橋正明・江口勝彦
2	基礎運動学特論 1	単関節・多関節運動における生体力学	高橋正明
3	基礎運動学特論 2	基本的・動作における生体力学	高橋正明
4	基礎運動学特論 3	授業内容の構築。獲得すべき能力と到達目標	高橋正明
5	基礎運動学特論 4	寝返り動作分析を教えるための授業到達目標	高橋正明
6	基礎運動学特論 5	立ち上がり動作分析を教えるための授業到達目標	高橋正明
7	基礎運動学特論 6	歩行動作分析を教えるための授業到達目標	高橋正明
8	基礎理学療法研究入門 1	文献・論文の読み方 1	江口勝彦
9	基礎理学療法研究入門 2	文献・論文の読み方 2	江口勝彦
10	基礎理学療法研究入門 3	論理学入門 1	江口勝彦
11	基礎理学療法研究入門 4	論理学入門 2	江口勝彦
12	基礎理学療法研究入門 5	基礎理学療法各領域に関する研究の現状	江口勝彦
13	基礎理学療法研究入門 6	基礎理学療法各領域に関する研究の現状	江口勝彦
14	基礎理学療法学潮流 1	基礎理学療法学研究の潮流 1	高橋正明
15	基礎理学療法学潮流 2	基礎理学療法学研究の潮流 2	江口勝彦

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	高橋 正明 江口 勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	各院生の研究主題に関連し、身体の動作、特に関節運動とバランス戦略に関する内外の先行研究、理学療法の対象となる疾患の病態と姿勢・動作との関連について検証し、さらに、最新の知見について検証・演習し研究計画を段階を追って作成する。あるいは、筋・呼吸・循環・代謝等の生理学に関する内外の先行研究、理学療法の対象となる疾患の病態と筋・呼吸・循環・代謝等の生理との関連について検証し、さらに、最新の知見について検証・演習し研究計画を段階を追って作成する。				
学習到達目標	1) 身体の姿勢・動作・呼吸・循環に関する現在の研究動向・トピックスがわかる。 2) 自らの研究計画書を完成させる。				
成績評価方法	演習による研究計画作成のプロセス及び成果により総合的に判定する。	オフィスアワー	①火曜：18時～19時 ②質問はメールで受け付ける takahashi@paz.ac.jp		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション	基礎理学療法学演習に関するオリエンテーション	江口 勝彦・高橋 正明
2	姿勢と動作 I	関節運動に関する研究	高橋 正明
3	姿勢と動作 II	バランス戦略に関する研究	高橋 正明
4	呼吸と循環 I	筋・呼吸・循環・代謝等の生理学に関する研究	江口 勝彦
5	呼吸と循環 II	筋・呼吸・循環・代謝等の理学療法に関する解析と評価方法に関する研究	江口 勝彦
6	研究計画 I	研究計画の要件、研究デザイン、実験計画	江口 勝彦・高橋 正明
7	文献購読 I	院生 発表	江口 勝彦・高橋 正明
8	研究計画 II	対象と倫理的配慮、予算計画とスケジュール	江口 勝彦・高橋 正明
9	文献購読 II	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
10	研究計画 III	研究計画中間発表	江口 勝彦・高橋 正明
11	文献購読 III	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
12	文献購読 IV	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
13	文献購読 V	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
14	文献購読 VI	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
15	研究計画発表会	研究計画最終確認	江口 勝彦・高橋 正明

教科書	未定 授業の中で紹介する。
参考書	授業の中で紹介する

科目名	臨床理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	松澤正 鈴木学 木村朗 加藤仁志	単位	2	必修・選択	選択

目的	理学療法学研究に資する臨床理学療法学に関する知識の滋養・概念の整理		
学習到達目標	臨床理学療法に関する修士論文作成の資料の収集と整理		
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。	オフィスアワー	12:00 ~ 13:00

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション		松澤正・木村朗 鈴木学
2	臨床物理療法学特論 1	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
3	臨床物理療法学特論 2	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
4	臨床物理療法学特論 3	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
5	臨床物理療法学特論 4	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
6	臨床理学療法学特論 1	神経評価特論	鈴木学
7	臨床理学療法学特論 2	神経治療特論	鈴木学
8	臨床身体活動学特論 1	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
9	臨床身体活動学特論 2	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
10	臨床身体活動学特論 3	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
11	臨床身体活動学特論 4	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
12	臨床理学療法学特論 3	臨床思考教育特論	鈴木学
13	臨床理学療法学特論 4	臨床思考教育特論	鈴木学
14	臨床理学療法学潮流 1	臨床理学療法学研究の潮流 1	松澤正
15	臨床理学療法学潮流 2	臨床理学療法学研究の潮流 2	木村朗

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	平成 25 年度において使用可能なメディア等、授業の中で紹介する

科目名	臨床理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	松澤 正 木村 朗	単位	2	必修・選択	選択

目的	物理療法および運動療法に含まれる各種治療法についての物理学的・生理学的基礎、ならびに、それらの臨床応用に関して考証をおこなう。特に、生活の質を向上させるリハビリテーションに寄与するための治療手法や、保健医療福祉の各分野にわたる物理療法および運動療法の適用に関して考証をおこない、さらに、これらに係わる最新の知見を検証・演習する。また、物理療法機器および身体活動支援機器が身体や環境に与える影響とその計測・評価手法について考証し、機器使用時のリスク管理についても検討する。		
学習到達目標	現在の物理療法機器および身体活動支援機器、その応用範囲、それらの研究動向についてわかり、理学療法の実践で応用できる。		
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。	オフィスアワー	授業開講期間の火曜日 18時-19時

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	物理療法の基礎Ⅰ	物理療法の基礎研究(1)	松澤 正
2	物理療法の基礎Ⅱ	物理療法の基礎研究(2)	松澤 正
3	物理療法と身体Ⅰ	物理療法と身体に関する研究(1)	松澤 正
4	物理療法と身体Ⅱ	物理療法と身体に関する研究(2)	松澤 正
5	物理療法の応用Ⅰ	物理療法の臨床応用に関する研究(1)	松澤 正
6	物理療法の応用Ⅱ	物理療法の臨床応用に関する研究(2)	松澤 正
7	運動療法の疫学Ⅰ	身体活動と運動療法の疫学研究(1)	木村 朗
8	運動療法の疫学Ⅱ	身体活動と運動療法の疫学研究(2)	木村 朗
9	身体活動開発機器Ⅰ	臨床身体活動開発機器の基礎研究(1)	木村 朗
10	身体活動開発機器Ⅱ	臨床身体活動開発機器の基礎研究(2)	木村 朗
11	身体活動開発機器Ⅲ	臨床身体活動開発機器の応用研究(1)	木村 朗
12	身体活動開発機器Ⅳ	臨床身体活動開発機器の応用研究(2)	木村 朗
13	近年の運動療法	身体活動と運動療法の動向(1)	木村 朗
14	近年の運動療法	身体活動と運動療法の動向(2)	木村 朗
15	理学療法と保健	保健領域における物理療法と運動療法	木村 朗

教科書	指定せず(必要に応じて資料を配布する)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	高齢者理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	浅田春美 加藤仁志	単位	2	必修・選択	選択

目的	身体とその運動機能の加齢変化，それらによる生活の変容について概説するとともに、高齢者の生活自立度，生活の質などの評価方法，研究方法について教授する。高齢者に関する制度における理学療法士の役割について学ぶことを目的に、それぞれの学生が身近な自治体における介護予防事業を調査し報告・討論することでその理解を深める。				
学習到達目標	1) 日本における高齢者の実態を把握し、個々の高齢者の身体・運動機能の加齢変化とそれによる生活の変容がわかる。 2) 介護保険制度や介護予防事業などでの理学療法士の役割または理学療法介入について理解する。また、それらの評価方法・研究方法がわかる。				
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。	オフィスアワー	講義の前後		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	ガイダンス	ガイダンス：課題提示	浅田 春美
2	日本における高齢者の実態（総論）	理学療法の対象となる高齢者の区分	浅田 春美・加藤 仁志
3	〃	老年症候群	浅田 春美・加藤 仁志
4	高齢者の評価	高齢者に関する評価	浅田 春美・加藤 仁志
5	〃	<運動機能・ADL・QOL・その他>	浅田 春美・加藤 仁志
6	各制度における理学療法の役割1	介護保険制度の中での理学療法の役割・課題	浅田 春美・加藤 仁志
7	〃	<通所・入所>	浅田 春美・加藤 仁志
8	各制度における理学療法の役割2	高齢者施策：介護予防事業での理学療法	浅田 春美・加藤 仁志
9	〃	<運動器，口腔・栄養，認知>	浅田 春美・加藤 仁志
10	高齢者に対する理学療法	高齢者のバランス機能と動作	浅田 春美・加藤 仁志
11	〃	運動介入など	浅田 春美・加藤 仁志
12	課題報告・討論	各自治体における高齢者施策における理学療法士の役割 討論	浅田 春美・加藤 仁志
13	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志
14	まとめ	介護予防事業への介入（実践）	浅田 春美・加藤 仁志
15	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志

教科書	市橋則明編：運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法，文光堂，2010
参考書	授業の中で紹介する

科目名	地域理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	目黒力 蛭間基夫	単位	2	必修・選択	選択

目的	高齢者や身体障害者が地域での生活を維持・改善するために必要な住環境整備，交通整備，街づくりなどを中心に教授する。また，地域保健を実践するための関連職種とその役割，そのチームにおける理学療法士の役割，地域保健を実践するために必要な社会制度などについて教授する。また，これらを実現することの礎となる事柄，すなわち，高齢者や身体障害者の身体特性，特に視力や認知機能，高齢者および障害者の日常生活活動・住環境・外出時の移動・交通利用の実態と，それらを土木計画学の手法を用いて研究デザインする方法を教授する。		
学習到達目標	1) 高齢者・身体障害者の生活に必要な住環境・交通・街についてわかる。 2) 地域保健における理学療法士の役割がわかり，実践のための自己の課題が明確になる。		
成績評価方法	授業への参加状況・報告による	オフィスアワー	17:00～18:00

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	環境Ⅰ	高齢者・身体障害者と生活	目黒力・蛭間基夫
2	環境Ⅱ	高齢者・身体障害者と住環境（1）	目黒力・蛭間基夫
3	環境Ⅲ	高齢者・身体障害者と住環境（2）	目黒力・蛭間基夫
4	環境Ⅳ	高齢者・身体障害者と街づくり（1）	目黒力・蛭間基夫
5	環境Ⅴ	高齢者・身体障害者と街づくり（2）	目黒力・蛭間基夫
6	社会制度	地域保健活動と社会制度	目黒力・蛭間基夫
7	人的環境Ⅰ	地域保健活動における関連職種の役割	目黒力・蛭間基夫
8	人的環境Ⅱ	地域保健活動における理学療法士の役割	目黒力・蛭間基夫
9	地域特性	高齢者・身体障害者の地域による特性	目黒力
10	外出特性分析Ⅰ	高齢者・身体障害者の外出特性分析（1）	目黒力
11	外出特性分析Ⅱ	高齢者・身体障害者の外出特性分析（2）	目黒力
12	交通Ⅰ	高齢者・身体障害者と交通（1）	目黒力
13	交通Ⅱ	高齢者・身体障害者と交通（2）	目黒力
14	計画Ⅰ	土木計画の手法を用いた研究デザイン（1）	目黒力
15	計画Ⅱ	土木計画の手法を用いた研究デザイン（2）	目黒力

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	病態検査解析学	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	藤田清貴 小河原はつ江 川口竜二 亀子光明	単位	2	必修・選択	選択

目的	臨床検査データから各種疾患の病態を解析するための技術・方法論とその意義について学ぶ（オムニバス方式）。		
学習到達目標	1. 各種疾患における病態と臨床検査データとの関連性について説明できる。 2. 臨床検査の異常データから病態を推測し、さらに進めるべき検査および病態解析法について説明できる。		
成績評価方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	オフィスアワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	イントロダクション 免疫化学検査データ解析 (1)	免疫化学検査データからの病態解析 (1)	藤田 清貴
2	免疫化学検査データ解析 (2)	免疫化学検査データからの病態解析 (2)	藤田 清貴
3	免疫化学検査データ解析 (3)	免疫化学検査データからの病態解析 (3)	藤田 清貴
4	免疫化学検査データ解析 (4)	免疫化学検査データからの病態解析 (4)	藤田 清貴
5	血液検査成績からの解析法	症例1を提示し、解析するための方法論を教授する。 その後、討論を通して、疾患を理解する。	小河原 はつ江
6		症例2について、同様に実施する。	小河原 はつ江
7		症例3について、同様に実施する。	小河原 はつ江
8		症例4について、同様に実施する。	小河原 はつ江
9	生体分子情報検査データ解析 (1)	生体分子情報検査データからの病態解析 (1)	亀子 光明
10	生体分子情報検査データ解析 (2)	生体分子情報検査データからの病態解析 (2)	亀子 光明
11	生体分子情報検査データ解析 (3)	生体分子情報検査データからの病態解析 (3)	亀子 光明
12	生体分子情報検査データ解析 (4)	生体分子情報検査データからの病態解析 (4)	亀子 光明
13	遺伝子情報検査データ解析 (1)	遺伝子情報検査データからの病態解析 (1)	川口 竜二
14	遺伝子情報検査データ解析 (2)	遺伝子情報検査データからの病態解析 (2)	川口 竜二
15	遺伝子情報検査データ解析 (3)	遺伝子情報検査データからの病態解析 (3)	川口 竜二

教科書	特になし。
参考書	必要に応じて資料を配布する。

科目名	病態免疫化学検査学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	藤田清貴	単位	2	必修・選択	選択

目的	生体の病変は血清蛋白に反映され、また血清蛋白の量的、質的变化は生体に変調を来すことから、血清蛋白異常を見逃すことなくとらえ、適切に検索をすすめることは患者の病態を正しく把握する上できわめて重要である。本特論では、免疫化学的手法を用いた抗原・抗体分離精製法、異常蛋白の分子構造解析などの分析技術についての理論や血清蛋白異常症の検査法および解析手順について教授する。また、異常免疫グロブリンが体液性成分と結合、あるいは相互作用によって測定系に影響を及ぼす異常蛋白例について対処できる能力を育成する。		
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種分離・精製法および電気泳動分析法の知識と技術を理解し異常蛋白の解析ができる。 2. 異常蛋白の知識と解析法を習得し病態を反映しない異常値に対処できる。 		
成績評価方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	オフィスアワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する (fujita@paz.ac.jp)。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	イントロダクション 血清蛋白異常症 (1)	血清蛋白異常症に関する基礎知識	藤田 清貴
2	血清蛋白異常症 (2)	血清蛋白異常症の分析法	藤田 清貴
3	蛋白質の分離・精製法 (1)	蛋白質の分離・精製法の種類と各理論	藤田 清貴
4	蛋白質の分離・精製法 (2)	蛋白質の分離・精製の進め方	藤田 清貴
5	抗体の分離・精製法 (1)	血清中からのIgG免疫グロブリンの精製法	藤田 清貴
6	抗体の分離・精製法 (2)	血清中からのIgA, IgM, IgD, IgE免疫グロブリンの精製法	藤田 清貴
7	異常蛋白の分離・精製法 (1)	血清中からの異常蛋白の分離・精製の進め方	藤田 清貴
8	異常蛋白の分離・精製法 (2)	尿中からの異常蛋白の分離・精製の進め方	藤田 清貴
9	各種電気泳動分析法 (1)	免疫電気泳動法・免疫固定電気泳動法の理論と判読法	藤田 清貴
10	各種電気泳動分析法 (2)	SDS-PAGE・Western blotting 法の理論と判読法	藤田 清貴
11	異常蛋白の分子構造解析法 (1)	電気泳動分析による異常蛋白の分子構造解析例 (1)	藤田 清貴
12	異常蛋白の分子構造解析法 (2)	電気泳動分析による異常蛋白の分子構造解析例 (2)	藤田 清貴
13	臨床検査における異常反応	臨床検査における異常反応のメカニズムとその対処法	藤田 清貴
14	討論会 (1)	検査値に影響を及ぼす異常蛋白と解析法 (1)	藤田 清貴
15	討論会 (2)	検査値に影響を及ぼす異常蛋白と解析法 (2)	藤田 清貴

教科書	藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質-基礎から発見・解析法まで (医歯薬出版)
参考書	岡田雅人, 他. タンパク質実験ノート (上. 抽出と分離精製; 下. 分離同定から一次構造の決定まで; 羊土社)。その他, 必要に応じて資料を配布する。

科目名	病態免疫化学検査学演習	学年	2	前期・後期	前期
担当教員	藤田清貴	単位	4	必修・選択	選択

目的	血清蛋白異常症に関する検査法の基礎的技術や新しい検査技術とその意義を教授し、病因・病態解析ができる応用能力を育成するとともに、臨床検査の実践の場で異常値や異常反応に対応できる基礎知識と応用技術を習得させる。また、研究内容に関連する文献購読と指導教員を交えた討論より研究を進めるための基礎的能力を養う。				
学習到達目標	1. 異常蛋白血症の病態と検査値との関連性を理解し病態解析ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。				
成績評価方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	成績評価方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	イントロダクション 症例検討会 (1)	臨床検査データの謎解き (1)	藤田 清貴
2	症例検討会 (1)	異常値からの病態解析 (1)	藤田 清貴
3	症例検討会 (2)	臨床検査データの謎解き (2)	藤田 清貴
4	症例検討会 (2)	異常値からの病態解析 (2)	藤田 清貴
5	症例検討会 (3)	臨床検査データの謎解き (3)	藤田 清貴
6	症例検討会 (3)	異常値からの病態解析 (3)	藤田 清貴
7	症例検討会 (4)	臨床検査データの謎解き (4)	藤田 清貴
8	症例検討会 (4)	異常値からの病態解析 (4)	藤田 清貴
9	症例検討会 (5)	臨床検査データの謎解き (5)	藤田 清貴
10	症例検討会 (5)	異常値からの病態解析 (5)	藤田 清貴
11	症例検討会 (6)	臨床検査データの謎解き (6)	藤田 清貴
12	症例検討会 (6)	異常値からの病態解析 (6)	藤田 清貴
13	症例検討会 (7)	臨床検査データの謎解き (7)	藤田 清貴
14	症例検討会 (7)	異常値からの病態解析 (7)	藤田 清貴
15	関連研究論文の購読 (1)	関連研究論文の原著購読 (1) * 関連研究論文は Clinical Chemistry, Clinica Chimica Acta, Blood, The New England Journal of Medicine, Annals of Clinical Laboratory Science などの英文を基本とする。	藤田 清貴

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
16	関連研究論文の発表討論会 (1)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (1)	藤田 清貴
17	関連研究論文の購読 (2)	関連研究論文の原著購読 (2)	藤田 清貴
18	関連研究論文の発表討論会 (2)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (2)	藤田 清貴
19	関連研究論文の購読 (3)	関連研究論文の原著購読 (3)	藤田 清貴
20	関連研究論文の発表討論会 (3)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (3)	藤田 清貴
21	関連研究論文の購読 (4)	関連研究論文の原著購読 (4)	藤田 清貴
22	関連研究論文の発表討論会 (4)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (4)	藤田 清貴
23	関連研究論文の購読 (5)	関連研究論文の原著購読 (5)	藤田 清貴
24	関連研究論文の発表討論会 (5)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (5)	藤田 清貴
25	関連研究論文の購読 (6)	関連研究論文の原著購読 (6)	藤田 清貴
26	関連研究論文の発表討論会 (6)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (6)	藤田 清貴
27	関連研究論文の購読 (7)	関連研究論文の原著購読 (7)	藤田 清貴
28	関連研究論文の発表討論会 (7)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (7)	藤田 清貴
29	関連研究論文の購読 (8)	関連研究論文の原著購読 (8)	藤田 清貴
30	関連研究論文の発表討論会 (8)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (8)	藤田 清貴

教科書	藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質-基礎から発見・解析法まで (医歯薬出版)
参考書	必要に応じて資料を配布する。

科目名	遺伝子情報検査学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	川口 竜二	単位	2	必修・選択	選択

目的	遺伝情報を理解することは、様々な病気の解明手段と深く関連してくる。ヒトを中心に遺伝子による遺伝子の情報伝達とタンパク発現までの仕組みについて、診断的手法を含めて理解させる。最新の遺伝子検査技術に対する理論的思考の組立や、先端機器の取り扱いができる能力を育成する。		
学習到達目標	1. 核酸の抽出、増幅、解析、検出ができる。 2. 遺伝子検査結果を解釈し、また自ら検査系を組み立てることができる。		
成績評価方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	オフィスアワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は学内で、事前の連絡によって対応する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	イントロダクション 細胞の構造と機能	細胞の構成と役割に関する基礎知識	川口 竜二
2	染色体の構造と機能	染色体と遺伝子に関する基礎知識	川口 竜二
3	核酸の構造と代謝	核酸の種類と機能に関する基礎知識	川口 竜二
4	遺伝子検査の機器・試薬	遺伝子検査に関わる機器と試薬の取り扱い	川口 竜二
5	検体の取り扱い	検査に用いる検体の種類と使用方法	川口 竜二
6	核酸の抽出・精製	DNA、RNA の抽出と精製方法	川口 竜二
7	核酸増幅法	各種の遺伝子増幅法の原理と汎用性	川口 竜二
8	検出技術	遺伝子検査技術の特徴と応用性	川口 竜二
9	遺伝子検査の精度管理	臨床検査の精度管理に適合した遺伝子検査の実際	川口 竜二
10	感染症	感染症検査への応用例	川口 竜二
11	血液疾患	血液疾患検査への応用例	川口 竜二
12	固形腫瘍	固形腫瘍検査への応用例	川口 竜二
13	遺伝性疾患	遺伝性疾患検査への応用例	川口 竜二
14	生活習慣病	生活習慣病検査への応用例	川口 竜二
15	遺伝医療 まとめ	まとめ	川口 竜二

教科書	未定
参考書	未定

科目名	遺伝子情報検査学演習	学年	2	前期・後期	前期
担当教員	川口 竜二	単位	4	必修・選択	選択

目的	遺伝情報を理解することは、様々な病気の解明手段と深く関連してくる。ここでは、遺伝子検査で得られる結果の解釈と遺伝子の取り扱い方法を中心に習得させる。		
学習到達目標	1. 遺伝子検査結果を解釈し、病態解析ができる。 2. 遺伝子断片を操作して、組換え体を構築できる。		
成績評価方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	オフィスアワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は学内で、事前の連絡によって対応する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	イントロダクション 症例検討会 (1)	臨床検査データの謎解き (1)	川口 竜二
2	症例検討会 (1)	異常値からの病態解析 (1)	川口 竜二
3	症例検討会 (2)	臨床検査データの謎解き (2)	川口 竜二
4	症例検討会 (2)	異常値からの病態解析 (2)	川口 竜二
5	症例検討会 (3)	臨床検査データの謎解き (3)	川口 竜二
6	症例検討会 (3)	異常値からの病態解析 (3)	川口 竜二
7	症例検討会 (4)	臨床検査データの謎解き (4)	川口 竜二
8	症例検討会 (4)	異常値からの病態解析 (4)	川口 竜二
9	症例検討会 (5)	臨床検査データの謎解き (5)	川口 竜二
10	症例検討会 (5)	異常値からの病態解析 (5)	川口 竜二
11	症例検討会 (6)	臨床検査データの謎解き (6)	川口 竜二
12	症例検討会 (6)	異常値からの病態解析 (6)	川口 竜二
13	症例検討会 (7)	臨床検査データの謎解き (7)	川口 竜二
14	症例検討会 (7)	異常値からの病態解析 (7)	川口 竜二
15	関連研究論文の購読 (1)	関連研究論文の原著購読 (1) * 関連研究論文は Clinical Chemistry, Clinica Chimica Acta, Blood, The New England Journal of Medicine, Annals of Clinical Laboratory Science などの英文を基本とする。	川口 竜二

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
16	関連研究論文の発表討論会 (1)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (1)	川口 竜二
17	関連研究論文の購読 (2)	関連研究論文の原著購読 (2)	川口 竜二
18	関連研究論文の発表討論会 (2)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (2)	川口 竜二
19	関連研究論文の購読 (3)	関連研究論文の原著購読 (3)	川口 竜二
20	関連研究論文の発表討論会 (3)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (3)	川口 竜二
21	関連研究論文の購読 (4)	関連研究論文の原著購読 (4)	川口 竜二
22	関連研究論文の発表討論会 (4)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (4)	川口 竜二
23	関連研究論文の購読 (5)	関連研究論文の原著購読 (5)	川口 竜二
24	関連研究論文の発表討論会 (5)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (5)	川口 竜二
25	関連研究論文の購読 (6)	関連研究論文の原著購読 (6)	川口 竜二
26	関連研究論文の発表討論会 (6)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (6)	川口 竜二
27	関連研究論文の購読 (7)	関連研究論文の原著購読 (7)	川口 竜二
28	関連研究論文の発表討論会 (7)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (7)	川口 竜二
29	関連研究論文の購読 (8)	関連研究論文の原著購読 (8)	川口 竜二
30	関連研究論文の発表討論会 (8)	関連研究論文の購読内容についての発表討論会 (8)	川口 竜二

教科書	未定
参考書	未定

科目名	病態血液検査学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	小河原 はつ江	単位	2	必修・選択	選択

目的	血液には造血幹細胞より分化・成熟した赤血球、白血球、血小板の3系統の細胞が存在し、凝固・線溶因子及びその制御因子を含む血漿成分とともに流動性を保ちつつ全身を循環している。病態血液検査学特論では各種血液疾患の病態を理解し、検査データからの解析能力を向上させることを目的とする。		
学習到達目標	血液疾患の病態を理解し、付加価値をもった情報提供ができる。		
成績評価方法	レポート提出および出席状況より評価する。	オフィスアワー	木曜日 16:30~19:00

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	貧血と血液疾患	貧血総論、骨髄不全、骨髄浸潤による貧血	小河原 はつ江
2		鉄代謝（欠乏と過剰）、巨赤芽球性貧血 慢性疾患に伴う続発性貧血	小河原 はつ江
3		サラセミア、鎌状赤血球症、赤血球膜または赤血球代謝異常による溶血性貧血	小河原 はつ江
4		後天性溶血性貧血、赤血球増加症	小河原 はつ江
5	止血と血栓症	止血総論、血小板異常症	小河原 はつ江
6		遺伝性凝固異常症	小河原 はつ江
7		後天性血液凝固異常症	小河原 はつ江
8		血栓性疾患	小河原 はつ江
9	白血球系疾患	白血球の機能と非腫瘍性白血球系疾患	小河原 はつ江
10		造血器腫瘍（序説）、骨髄増殖性疾患、骨髄異形性症候群	小河原 はつ江
11		急性白血病、非ホジキンリンパ腫および慢性リンパ性白血病	小河原 はつ江
12		多発性骨髄腫および類縁疾患	小河原 はつ江
13	輸血医学	輸血	小河原 はつ江
14		造血幹細胞移植	小河原 はつ江
15	まとめ		小河原 はつ江

教科書	HF Bunn & JC Aster 著 ハーバード大学テキスト血液疾患の病態生理 奈良信雄訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル、2012
参考書	WHO分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学 押味和夫監修、木崎昌弘・田丸淳一編著、中外医学社、2009

科目名	病態血液検査学演習	学年	2	前期・後期	前期
担当教員	小河原 はつ江	単位	4	必修・選択	選択

目的	最新の血液検査学における分析技術、研究方法を学ぶ。また、血液像および骨髄像を読むことができ、CBC データや各種検査結果も含めて、的確な情報を提供できる知識・技術を学ぶ。		
学習到達目標	1) 血液像・骨髄像の報告ができる。 2) フローサイトメトリー法による解析技術をマスターする。		
成績評価方法	レポート提出および出席状況より評価する。	オフィスアワー	木曜日 16:30~19:00

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	形態学的分析法 (1) 講義・演習	オリエンテーション 末梢血液像の見方、考え方	小河原 はつ江
2	同上	PC を使用した血液像判定	小河原 はつ江
3	同上	顕微鏡下で症例について血液像を読み、所見と今後必要な検査について提案する。これをレポートにして提出。	小河原 はつ江
4	同上	顕微鏡下で症例について血液像を読み、所見と今後必要な検査について提案する。これをレポートにして提出。	小河原 はつ江
5	同上	顕微鏡下で症例について血液像を読み、所見と今後必要な検査について提案する。これをレポートにして提出。	小河原 はつ江
6	形態学的分析法 (2) 講義・演習	骨髄像の読み方、レポートの書き方について講義	小河原 はつ江
7	同上	症例 1. 骨髄像判定	小河原 はつ江
8	同上	症例 2. 骨髄像判定	小河原 はつ江
9	同上	症例 3. 骨髄像判定	小河原 はつ江
10	同上	症例 4. 骨髄像判定	小河原 はつ江
11	同上	症例 5. 骨髄像判定	小河原 はつ江
12	同上	判定した骨髄像について 6 回の演習の中で、判定結果をとりまとめ、レポートで報告する。	小河原 はつ江
13	フローサイトメトリー法 に関する講義	フローサイトメトリーの原理	小河原 はつ江
14	同上	リンパ球サブセット測定について	小河原 はつ江
15	同上	Th1/Th2 比測定法について	小河原 はつ江

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
16	フローサイトメトリー法に関する講義	制御性T細胞測定法について	小河原 はつ江
17	同上	好中球アポトーシス測定について	小河原 はつ江
18	同上	造血器腫瘍細胞の解析	小河原 はつ江
19	フローサイトメトリー演習	フローサイトメーターの操作と保守・管理	小河原 はつ江
20	同上	CD4/CD8 比測定法	小河原 はつ江
21	同上	Th1/Th2 比測定法	小河原 はつ江
22	同上	制御性T細胞測定法	小河原 はつ江
23	同上	好中球アポトーシス測定法	小河原 はつ江
24	同上	造血器腫瘍細胞の解析	小河原 はつ江
25	研究紹介とまとめ	骨髄腫における検査データからのアプローチ	小河原 はつ江
26	同上	虚血性心疾患と好中球アポトーシス	小河原 はつ江
27	同上	精神的ストレスとリンパ球サブセット解析	小河原 はつ江
28	同上	研究成果中間報告	小河原 はつ江
29	同上	研究相談：特別研究における問題点を探る	小河原 はつ江
30	同上	まとめ	小河原 はつ江

教科書	指定せず。
参考書	適宜紹介する

科目名	生体分子情報検査学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	亀子光明	単位	2	必修・選択	選択

目的	生体成分である血液、尿には、疾患に関連する様々な血漿蛋白、酵素、脂質、糖質、微量元素などが含まれており、それら成分の生理学的変動を解析することは、生体内の異常を把握する上で重要となる。健康状態からの逸脱がおり、生理学的変動がどの様に変化するかを解析し、その解析方法を理解する。異常をより早く把握するために有用となる生体成分の解析や測定を開発する能力を指導する。				
学習到達目標	1. 生体成分の生理学的変動（個体内・個体間）解析ができる。 2. 疾患に関連する生体成分を立証する。				
成績評価方法	レポート・検討内容・出席状況から総合的に評価する。	オフィスアワー	随時質問を受ける。個別の質問は事前の連絡により随時対応する (kameko@paz.ac.jp)。		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	基準値・臨床判断値 (1)	基準値の分布と基準範囲の定義	亀子 光明
2	基準値・臨床判断値 (2)	基準値の変動要因 (技術的変動要因・生理学的変動要因)	亀子 光明
3	基準値・臨床判断値 (3)	基準値範囲の設定 (基準個体の抽出方法, 統計処理法, 設定上の留意点)	亀子 光明
4	各種生体成分の変動 (1)	肝機能検査における測定項目の変動解析	亀子 光明
5	各種生体成分の変動 (2)	腎機能検査における測定項目の変動解析	亀子 光明
6	各種生体成分の変動 (3)	内分泌機能検査における測定項目の変動解析	亀子 光明
7	各種生体成分の変動 (4)	循環器機能検査における測定項目の変動解析	亀子 光明
8	各種生体成分の変動 (5)	骨代謝機能検査における測定項目の変動解析	亀子 光明
9	各代謝の変動解析 (1)	糖質, 脂質, タンパクアミノ酸の代謝に影響を与える因子の解析	亀子 光明
10	各代謝の変動解析 (2)	ビタミン, カルシウム・リン代謝に影響を与える因子の解析	亀子 光明
11	RTP 1 (Rapid turnover protein)	低栄養状態の栄養アセスメント蛋白として, レチノール結合タンパク (RBP4) の生理学的変動を解析	亀子 光明
12	RTP 2 (Rapid turnover protein)	低栄養状態の栄養アセスメント蛋白として, トランスサイレチン (TTR) の生理学的変動を解析	亀子 光明
13	微量元素	亜鉛の生理学的変動を解析	亀子 光明
14	尿中低分子蛋白 1	尿中に排泄される低分子蛋白である, $\alpha 1$ および $\beta 2$ マイクログロブリンの生理学的変動を解析	亀子 光明
15	尿中低分子蛋白 2	尿中に排泄される低分子蛋白である RBP, TTR の生理学的変動を解析	亀子 光明

教科書	指定せず (必要に応じ資料を配布する)
参考書	

科目名	生体分子情報検査学演習	学年	2	前期・後期	前期
担当教員	亀子光明	単位	4	必修・選択	選択

目的	生体成分の中で、疾患に関連する血漿蛋白、酵素、微量金属、尿中に排出される低分子蛋白質の量的異常やそれらの生理学的変動を明らかにするとともに、疾患との関連性を分析する。そのため、解析に必要な統計処理法や対象項目の測定方法についても演習する。				
学習到達目標	1. 各生体成分を分析、測定し、得られたデータの分析法を理解する。 2. 測定方法の技術を身につけ、新しい検出法を学ぶ。				
成績評価方法	レポート・検討内容・出席状況から総合的に評価する。	成績評価方法	レポート・検討内容・出席状況から総合的に評価する。		

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	生理的変動についての考え方と基礎知識について	亀子光明
2	医学統計的解析 (1) 講義・演習	統計モデルを使った分散分析法 1元配置の分散分析	亀子光明
3	医学統計的解析 (2) 講義・演習	統計モデルを使った分散分析法 2元配置の分散分析	亀子光明
4	医学統計的解析 (3) 講義・演習	統計モデルを使った分散分析法 枝分かれ配置の分散分析	亀子光明
5	医学統計的解析 (4) 講義・演習	実際の臨床データを用いた統計解析	亀子光明
6	主な酵素、血漿蛋白の生理的変動の解析	主な酵素、血漿蛋白の生理的変動を個体内および個体間変動に分けて解説	亀子光明
7	分析方法の講義 (1)	比濁法と比濁法の原理と両測定法の比較	亀子光明
8	分析方法の講義 (2)	EIA, ELISA の原理解説	亀子光明
9	分析方法の講義 (3)	発光物質を用いたアッセイ系の原理解説	亀子光明
10	分析方法の講義 (4)	微量金属の測定法の解説	亀子光明
11	分析方法の講義 (5)	自動分析装置を利用した測定法の解説と応用	亀子光明
12	分析方法の講義 (6)	尿中低分子蛋白の分析法と検出方法	亀子光明
13	分析方法の実習 (1)	ELISA のアッセイ系を組み立て、測定を実際に行う。	亀子光明
14	分析方法の実習 (2)	低分子蛋白質を SDS-PAGE などを用いて検出する	亀子光明
15	分析方法のまとめ	各分析方法の利点、欠点、構築して測定系の討論	亀子光明

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
16	関連研究論文 課題 1	Clinical Chemistry, Clinica Chimica Acta 等にある生体分子情報検査に関連する論文を読み、内容をまとめる。(課題 1)	亀子 光明
17	課題 1 の発表・討論	課題 1 の内容を発表し、討論を行う。	亀子 光明
18	関連研究論文 課題 2	課題 2 の論文を読み、内容まとめる	亀子 光明
19	課題 2 の発表・討論	課題 2 の内容を発表し、討論を行う。	亀子 光明
20	関連研究論文 課題 3	課題 3 の論文を読み、内容まとめる	亀子 光明
21	課題 3 の発表・討論	課題 3 の内容を発表し、討論を行う。	亀子 光明
22	関連研究論文 課題 4	課題 4 の論文を読み、内容まとめる	亀子 光明
23	課題 4 の発表・討論	課題 4 の内容を発表し、討論を行う。	亀子 光明
24	関連研究論文 課題 5	課題 5 の論文を読み、内容まとめる	亀子 光明
25	課題 5 の発表・討論	課題 5 の内容を発表し、討論を行う。	亀子 光明
26	関連研究論文 課題 6	課題 6 の論文を読み、内容まとめる	亀子 光明
27	課題 6 の発表・討論	課題 6 の内容を発表し、討論を行う。	亀子 光明
28	関連研究論文 課題 7	課題 7 の論文を読み、内容まとめる	亀子 光明
29	課題 7 の発表・討論	課題 7 の内容を発表し、討論を行う。	亀子 光明
30	まとめ	読んだ論文を総合的に評価し、それぞれの特徴をまとめる。	亀子 光明

教科書	指定せず
参考書	適宜紹介する (Clinical Chemistry, Clinica Chimica Acta 等の論文), 臨床検査のガイドライン (JSLM2012) (日本臨床検査医学会編集, 宇宙堂八木書店)